



図書館員のひみつの本棚 182回

睡蓮の花が美しい季節を迎えました。睡蓮の絵をたくさん描いた画家と言えば、印象派を代表するフランスの画家クロード・モネが有名です。モネの大作「睡蓮」のモデルになった庭は一般公開されており、たくさんの観光客が訪れるそうです。今回は、モネの庭へ行った気分になれる物語を紹介します。

『リネア：モネの庭で』

クリスティーナ・ビョルク／文 レーナ・アンデション／絵 世界文化社 1993年

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★ 中学生★★☆
高校★☆☆ 一般★☆☆

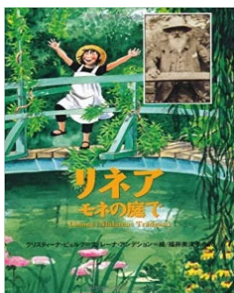
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

リネアは、スウェーデンに住む花が大好きな女の子。元庭師のブルームさんにモネの画集を見せてもらううちに、彼女はモネが描いた美しい「モネの庭」にあこがれを抱くようになります。ブルームさんとパリにやってきたリネアは、美術館で印象派の絵について学んだあと、パリ郊外にあるモネの庭を訪れ、睡蓮池の“日本の橋”の上に立ってうれしさのあまり涙を流します。そして幸運にもモネの子孫と出会ったリネアは、モネやその家族についてのエピソードも聞くことができたのでした。たくさんのイラストや写真、そしてモネの絵画が載っており、モネや印象派について楽しく知ることができる1冊です。

<子どもに手渡す時のポイント>

シリーズで、リネアが1年間の自然観察をつづった『リネアの12か月』(1994)や、室内での花の育て方を教えてくれる『リネアの小さな庭』(1994)が出版されています。気に入った子どもには、こちらも手渡してみてください。ただし、3冊とも現在書店では入手が難しいため(出版社品切れ、重版未定)、図書館をご利用ください。



発行：福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課
電話：092-852-0639
FAX：092-852-0801